

精鋭管理部隊の「相棒」はピンクの携帯電話



日本財託
(東京都新宿区)
重吉勉社長

◇…サービス名「一室入魂」で知られる日本財託は、賃貸住宅一室からでも管理を受託するという気合いの入った会社だ。同社の抱えるオーナーの多くがワンルームオーナー。「東京に物件を持ちたい」ということで購入した地方在住オーナーも少なくない。そのため、自分のマンションであっても見に来られるのはせいぜい一年に

一度か二度。「出張の合間を縫ってほんの瞬だけ立ち寄って帰られる方もいらっしゃいます」(取締役 野中弘美氏)

吉松こころの取材日記



はできない。その点、日本財託の管理部隊には寝食を共にする相棒がい

日本財託「一室入魂」で1R物件をお預かり

る。その相棒とはなんとピンクの携帯電話。会社から支給された携帯電話は、全員そろってピンク色。「どこにあっても目立つ」のがウリ。最初は嫌がっていた男性社員も、今はみな肌身離さず抱えている。

◇…正月。いっつ入居者からの連絡が入るかかわからないピンクの電話を抱えて管理部の森さんはドキドキハラハラの正月休みを送っていたという。結局、8日あった休みのうち電話がならなかったのは3日間だけ。休暇中の半分は、なにかしら入居者から問い合わせの電話があったわけだ。中には「隣の部屋の前にはスイカが置いてある。気味が悪いから撤去して欲しい」なんていう問い合わせもあったとか。夏の果物がなぜ??管理部のスタッフには、休みも季節も関係ないということか。もし、ピンクの電話を持った人を見かけたら、入居者対応に走る日本財託のスタッフかもしれない。